

実験動物 ニュース

The Japanese Association for Laboratory Animal Science

目 次

日本実験動物学会からのお知らせ	
平成 20 年度第 2 回理事会議事録	7
他学会情報	
第 13 回腸内細菌学会のご案内	11
SORST シンポジウム (3) 「遺伝子改変マーマーセット研究の新展開」 のご案内	12
ICLAS 情報	13
Experimental Animals 58(2) 収載論文和文要約集	16
維持会員名簿	i
Experimental Animals オンライン投稿マニュアル :	
Manuscript Central® Author Manual	I

Vol. 58 No. 2 / April 2009

日本実験動物学会からのお知らせ

平成 20 年度第 2 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 12 月 2 日（火）
午前 10 時～午後 1 時 30 分
場 所：タワーホール船堀（東京都江戸川区）
出席者：芹川忠夫（理事長）、山村研一、八神健一、真下知士、関口富士男、杉山文博（以上、常務理事）、伊藤豊志雄、浦野 徹、岡部 勝、小倉淳郎、落合敏秋、笠井憲雪、国枝哲夫、阪川隆司、関田清司、高木博義、中潟直己、米川博通（以上、理事）、佐藤 浩、牧野 進（以上、監事）
書面による意思表示者：
安居院高志、岩倉洋一郎
議 長：芹川忠夫（理事長）
議事録署名人：浦野 徹、岡部 勝（以上、理事）

[出席者数の確認]

理事会に先立ち、定款第 22 条により、八神庶務担当理事が出席者、書面による意思表示者の確認を行い、出席者が定足数に達していることを確認した。

[議長の選出]

定款第 21 条 2 項により、芹川理事長を議長とした。

[議事録署名人の選出]

芹川議長より、浦野理事、岡部理事を議事録署名人として推薦したい旨の発議があり、出席者に諮ったところ、推薦通り選出された。

議 題

[報告事項]

1. 庶務報告（八神庶務担当常務理事）

平成 20 年 12 月 1 日から始まった公益法人制度により、今後 5 年以内に新しい公益法人の認定を受けるのか、一般社団法人に移行するのかが選択する必要がある。本年 7 月、8 月に行われた日本学術会議および文科省のシンポジウムに出席し、

情報収集を行った。今後のタイムスケジュール、方針について検討していく旨が報告された。

動物使用数調査については、できるだけ実質的で広範囲な調査を行うべく原案を検討している。調査対象については、大学、研究所の正確な名簿を入手する。使用数は実数把握が難しいので、飼育数を調査する方向で検討していることなどが報告された。調査情報の取り扱い、公開方法について検討してほしい、前動物福祉倫理委員長の意見を参考にして今後の方向を検討した方が良い、系統名ではなく動物種で質問したほうが良い、などの意見が出された。

2. 会計報告（関口会計担当常務理事）

平成 20 年度上半期（4 月 1 日～10 月 31 日）の収支決算書が報告された。収入として、正会員の会費納入率が 66.4%、維持会員が 90.5%であり、正会員の納入率を向上させる必要がある。事業収入として、技術講習会の参加収入を増加させたい旨が述べられた。支出については、各委員会等の活動経費が予算額より少ないが、下半期の活動により増加すると推測される。総じて、収入・支出とも概ね順調であることが報告された。

第 55 回笠井大会長から、大会開催関連費について公認会計士の監査が必要かどうかの質問があった。大会独自で公認会計士の監査を受けるか、本学会において公認会計士の監査を受けるか、いずれかを受ければ良い。本学会において監査を受ける場合は、会計事務所が集計・確認業務が必要となり、別途、学会の通常業務以外の費用がかかる。これらの会計報告については、「定期大会開催に関する申し合わせ」＜大会長の責務＞4 項において、明確にするなどの検討が必要である。

3. 理事会 ML 報告（真下庶務担当常務理事）

平成 20 年度前期の理事会メーリングリスト（6 月 1 日～11 月 25 日）における審議内容が報告された。本年 5 月 17 日に行われた理事候補者の会

議について、本学会理事は6月1日に就任することから、平成20-21年度在任理事候補者会議とした。疾患モデルシンポジウムにおける学会員の講師は、旅費が支払われ、謝金は支払われない。日当については、いずれの集会についても支払われないことを確認した。各大学研究所の全国共同利用共同拠点化申請について、岡部理事からその背景が説明され、本学会の趣旨に沿うものであれば要望書を送付することとした。

4. 各委員会等報告

4.1 編集委員会 (米川委員長)

Experimental Animals の発刊を行った。2008年最優秀論文賞の選考は12月末までに行う。投稿論文数が減少しており積極的な投稿を要請する。機関誌電子化の準備として、1) 学会ホームページに電子化のページを作成した。2) 論文査読候補者データを作成した。3) 電子化サイト (Manuscript Central) の仕様を確認した。平成21年1月15日から投稿論文の電子受付を開始し、書類での受付は一切廃止する。ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) の各中核機関に英文総説を寄稿依頼している。

4.2 学術集会委員会 (岩倉委員長)

第56回日本実験動物学会総会が、平成21年5月14-16日大宮ソニックシティで開催される。

4.3 財務特別委員会 (阪川委員長)

維持会員を対象に公益法人制度改革に関するアンケートを実施した。アンケート結果は、本理事会後の維持会員懇談会で報告する。

4.4 疾患モデル委員会 (国枝委員長)

第1回疾患モデルシンポジウムが本理事会の翌日に、糖尿病モデルをテーマとして開催される。

4.5 国際交流委員会 (小倉委員長)

第3回 AFLAS 会議が本年9月29日に北京で開催された。次回は2010年に台湾で開催され、その次の会議はマレーシアとタイが立候補している。インド、マレーシア、シンガポールが新たに参加し、活発な活動が行われていることなどが笠井理事から報告された。ICLAS 国際会議は、本年11月11日に開催された。

本学会国際賞は、アジアからの参加者を増や

すためにも重要な役割を担っており、基金の続く限りこの賞を存続させることとした。AFLAS 開催国から表彰候補の推薦依頼があった場合は、メーリングリストやホームページにより広く連絡し、理事長と委員会で公平に判断する。

4.6 広報委員会 (岡部委員長)

ホームページの更新、メーリングリストの管理運営を行った。

4.7 動物福祉・倫理委員会 (浦野委員長)

第56回日本実験動物学会総会におけるシンポジウムを企画・提案した。いわゆる第3者評価機構について検討する。

4.8 定款・細則・規程等検討委員会 (落合委員長)

定款・細則・規定等に関する新規課題が生じた場合に対応する。

4.9 マウス・ラット感染対策委員会 (伊藤委員長)

マウス・ラット感染症に関するテキストブックの出版を準備している。

4.10 教育研修ワーキンググループ (中潟委員長)

第56回日本実験動物学会総会におけるワークショップの名称を LAS セミナーとし、「命名規約」、「微生物モニタリング」、「胚・精子の凍結保存」を3日間にわけて開催する。参加者を増加させるため、抄録の事前配布やアンケート調査などを行う。本学会主催の技術講習会として、「麻酔と術後管理」についての開催を検討する。他大学や学会等と共催については、具体的な講習会の内容を検討した後に決定することとした。

4.11 学会誌刷新検討ワーキンググループ (山村委員長)

はじめに、学会誌は学術集会と並んで学会にとって重要な活動であることが述べられ、以下の点について提言がなされた。学会誌のカテゴリーについて再検討の必要がある。投稿時にカテゴリーあるいは編集委員を指定する方式が望ましい。Aims and scope 等を明記したほうが良い。投稿論文のタイプとして、Original papers, Notes, Brief data reports を整理する必要がある。論文の数と質を向上させるため、1) 誌名を変更する、2) 投稿を学会員に限るべきではない、3) 論文受理から返答までの期間を短縮する、4) 総説論文を積極的に掲載する、などが提言された。

学会誌刷新検討WGからの提言を受けて、芹川理事長から、(1)電子化に伴い早急に変更すべきもの、(2)さらに検討したうえで審議していくものに分けた旨が述べられた。(1)早急に変更すべきものとして、Aims and scopeを掲載する、投稿は学会員に限らない、電子化に伴い査読期間を短縮する、総説論文を積極的に掲載する、論文タイプはOriginal papersとReview articlesだけにすることを決定した。(2)誌名の変更は、これまでの経緯などから時間をかけて検討する。編集委員、外国委員(Invited editor)について、今後検討していくこととした。

前期活動をもって本ワーキンググループは終了し、提言事項について今後常務理事会で検討していくこととした。

[審議事項]

1. 平成20年度学会賞受賞候補者の承認

1.1 安東・田嶋賞

八神学会賞選考委員長より、学会賞選考委員会の選考結果として松本耕三会員を安東・田嶋賞受賞候補者に推薦する旨が報告された。審議の結果、松本会員を平成20年度安東・田嶋賞受賞者として承認された。

松本耕三 会員

(徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部
附属動物実験施設)

「ラットの先駆的遺伝子マーカー開発と疾患モデルラットの遺伝解析研究」

1.2 奨励賞

八神学会賞選考委員長より、学会賞選考委員会の選考結果として越後貫成美会員、林元展人会員を奨励賞受賞候補者に推薦する旨が報告された。審議の結果、越後貫成美会員、林元展人を平成20年度奨励賞受賞者として承認された。また、学会賞の水準を向上するため、応募者を増やす方策について意見が出された。

越後貫成美 会員

((独)理化学研究所筑波研究所バイオリ
ソースセンター遺伝工学基盤技術室)

「実験動物を用いた顕微授精技術の応用」

林元展人 会員

((財)実験動物中央研究所 ICLAS モニタ

リングセンター)

「*Pasteurella pneumotropica* および *Bordetella hinzii* の実験動物に対する病原性とその検査法に関する研究」

1.3 功労賞

笠井功労賞諮問委員長より、功労賞諮問委員会の答申として豊田 裕会員を功労賞受賞候補者に推薦する旨が報告された。審議の結果、豊田会員を平成20年度功労賞受賞とすることが承認された。

豊田 裕 会員 (帯広畜産大学 名誉教授)

2. 第58回大会長(平成23年5月)の選出

芹川理事長より、第58回大会長として米川理事の立候補があったことが報告された。審議の結果、米川理事を第58回大会長とすることが承認された。米川大会長より、大会の抱負として、マウスフォーワードジェネティクスを中心に企画したい、若い研究者が参画できるようにしたい旨の挨拶があった。

芹川理事長より、1)大会長の選出方法として、正会員の立候補を受付けた後に理事の推薦を受付ける手順、2)東京とそれ以外の地域で交互に開催されてきた経緯が述べられ、意見が求められた。検討の結果、1)申し合わせを今後庶務担当で検討する、2)大会開催場所については、東京とそれ以外の地域を必ずしも交互に選ぶ必要がないことに合意が得られた。

3. 名誉会員の推薦

芹川理事長より、名誉会員に関する細則が作成された経緯が説明された。本学会の名誉会員として、野村達次先生に加え、光岡知足先生、興水馨先生、森脇和郎先生が平成18年度に名誉会員になられた。今回、今道友則先生と菅野 茂先生の推薦が芹川理事長より発議された。名誉会員に関する細則に基づき審議した結果、次期総会において今道先生、菅野先生を名誉会員として推薦することが、全員一致で承認された。

功労賞と名誉会員の違い、名誉会員の選考方法などについて意見が出され、名誉会員に関する細則の見直しを検討することとした。

4. 新入会員の承認

平成20年5月から10月までの入会希望者24名の入会が承認された。

5. その他

荘税理士から、公益法人化について以下の説明がされた。平成20年12月1日から公益法人制度が施行され、5年以内に現在の社団法人から、公益社団法人、一般社団法人、あるいはその他の任意団体になるかを選択しなければならない。ただし、今後5年間はこれまでどおり文部科学省の監督下で、特例民法法人として存続することができる。

税制措置として、収益事業のみ課税（従来の公益法人）と寄付金優遇措置（特定公益増進法人）があるが、本学会は現在、前者の税制措置を受けている。公益社団法人になると、後者の寄付金優遇措置を受けることができるようになる。一般社団法人になると、原則的に会費等すべての収入に課税されるが、非営利型法人に認定された場合は、収益事業にのみ課税されることになる。詳しくは、本理事会後の維持会員懇談会で説明される。また、第56回日本実験動物学会総会の前日の平成21年5月13日に、本学会員への説明会を予定している。

以上

補記

平成20年度最優秀論文賞について

編集委員会（米川委員長）で候補論文の選考が行われ、下記の論文が選考された旨の報告があり、理事の持ち回り審議（平成21年3月2日）により承認された。

最優秀論文賞

Diabetes-associated complications in Spontaneously Diabetic Torii fatty rats

（SDT (Spontaneously Diabetic Torii) fatty ラットにおける糖尿病性合併症)

Experimental Animals 57: 111-121, 2008.

著者名：松井謙一¹⁾、太田 毅¹⁾、小田知洋¹⁾、
 笹瀬智彦¹⁾、上田順久¹⁾、美谷島克宏²⁾、
 益山 拓²⁾、篠原雅巳³⁾、松下睦佳¹⁾

所 属：¹⁾ 日本たばこ産業医薬総合研究所、
 ²⁾ 同安全性研究所、³⁾ 日本クレア

他学会情報

第13回腸内細菌学会のご案内

メインテーマ：

腸内フローラと消化管—「第二の脳」の機能研究の新展開

日時：平成21年6月11日(木)・12日(金)

会場：北里大学 薬学部

「コンベンションホール」

(東京都港区白金5-9-1)

会長：高野俊明(カルピス(株))

参加費：(事前登録) 会員 6,000円 一般 7,000円
学生 2,000円

(当日登録) 会員 7,000円 一般 8,000円
学生 2,000円

(予稿集会員無料配布, 当日別売1,000円)

主催：財団法人 日本ビフィズス菌センター
事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-12

TEL：03-5319-2669 FAX：03-5978-4068

e-mail：jbf@ipecc-pub.co.jp

学会スケジュール：

〈6月11日(木)〉

8:50～ 開会の挨拶

9:00～15:40 一般講演発表

15:55～16:00 日本ビフィズス菌センター研究
奨励賞授賞式

16:00～16:50 受賞講演

17:00～17:50 特別講演1

「Molecular Analysis of Commensal Microbial-
Host Cross-Talk in the Intestine」

Andrew Neish

(Emory University School of Medicine)

18:00～19:30 懇親会(懇親会費 2,000円)

〈6月12日(金)〉

9:30～10:20 特別講演2

「腸は考える—回想と展望」

藤田恒夫(新潟大学名誉教授)

10:30～12:30 シンポジウム1

テーマ『腸内フローラ研究を見据えた腸管機能
研究の新たな展開』

・「培養細胞を用いたin vitro実験から見えてくる
機能」

清水 誠

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

・「消化管短鎖脂肪酸受容体の発現様式とその
生理作用」

桑原厚和

(静岡県立大学大学院環境科学研究科)

・「消化管におけるグルタミン酸シグナルの役割」
鳥居邦夫

(味の素(株)ライフサイエンス研究所)

・「消化管平滑筋層とカハールの介在細胞の発生」
鳥橋茂子(名古屋大学医学部)

14:00～16:00 シンポジウム2

テーマ『腸内フローラは神経機能にどの様に影
響するか?』

・「セロトニンと消化管機能」

藤宮峯子(札幌医科大学医学部)

・「乳酸菌の腸内投与による自律神経活動と生
理機能の変化」

永井克也(大阪大学名誉教授)

・「ストレスと腸内フローラ」

須藤信行(九州大学大学院医学研究院)

・「腸内フローラと睡眠：便通状態と睡眠健康
の関係を中心に」

小野茂之(花王(株)ケアビューティ研究所)

16:00～16:10 閉会の辞

会場へのアクセス：

【渋谷駅】

東口下車 都バス「田87」系統

田町駅行15分 北里研究所前下車

【広尾駅(地下鉄日比谷線)】

天現寺橋方面(出口1, 2番)下車 徒歩10分

【恵比寿駅(JR・地下鉄日比谷線)】

東口下車 徒歩15分または都バス「田87」系統

田町駅行7分 北里研究所前下車

【田町駅(JR), 三田駅(都営地下鉄浅草線・三田線)】

三田口下車 都バス「田87」系統

渋谷駅行15分 北里研究所前下車

【白金高輪駅(地下鉄南北線・三田線)】

恵比寿方面下車徒歩10分

第13回腸内細菌学会 URL

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbf/meeting/index.shtml>

SORST シンポジウム(3) 「遺伝子改変マーマセット研究の 新展開」のご案内

主催：独立行政法人 科学技術振興機構

日時：2009年4月27日(月) 10:00～18:00

会場：コクヨホール(東京・品川)

交通：JR品川駅港南口から徒歩5分

参加費：無料

(研究交流会参加費3,000円(当日徴収))

内容：今、遺伝子改変マーマセットは実験動物として、特に脳・神経系の研究やiPS細胞技術の臨床応用へのモデル動物として、その技術開発に大きな期待がかけられています。本シンポジウムはこの研究の現状と課題を紹介し、将来展望を語り合うことを目的としています。

主な講演項目：

第1部 「実験動物としてのマーマセットとその発生工学的研究」

「マーマセット研究の総括：イントロダクション」

慶應義塾大学医学部 教授 岡野栄之

「遺伝子改変マーマセットの作出と今後の展開～発生工学からiPSまで～」

(財)実験動物中央研究所 室長

佐々木えりか

第2部 「マーマセットのバイオメディカルへの応用」

「マーマセットを用いた再生心筋細胞移植モデルの開発」

慶應義塾大学大学院医学研究科 教授

福田恵一

第3部 「世界をリードするマーマセット研究、その課題と展望」

「マウスを超える実験動物にするための克服すべき課題と期待」

自然科学研究機構 理事 勝木元也

「霊長類を用いた脳科学研究の展望」

自然科学研究機構生理学研究所 教授

伊佐 正

詳細については、下記URLをご覧ください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/sorst/sympo/sorst-sympo3.pdf>

お問い合わせ先：

科学技術振興機構(JST) SORST シンポジウム(3)事務局

TEL: 03-3512-3526

E-mail: s-sympo3@yaesu-sorst.jst.go.jp

参加申込み：

下記URLの★登録フォーム★から参加登録を行ってください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/sorst/>

ICLAS 情報

このICLAS情報は、ICLAS FYI BulletinやICLAS理事からの情報などをもとに、ニュース発行時に陳腐化しない案件を選択したものです。

1. 関連学会、講習会等の案内

a. VII World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences

August 30–September 3, 2009, Rome (Italy)

b. International Symposium on Laboratory Animal Science Ethics, Welfare, and Legislation on the Use and Care of Laboratory Animals or ILAS2009

The symposium will be held on April 26–29, 2009 at The Royal Thai Navy Conventional Hall, Bangkok, Thailand. The purpose of this symposium is to serve as a platform for participants and exhibitors to exchange ideas and information with respect to ethics, regulation, and guidelines for the use and care of laboratory animals. Participants will have opportunities to listen to a number of distinguished speakers, including Prof. Peter Doherty (keynote speaker), a Nobel Prize laureate in Physiology and Medicine, 1996, who has kindly accepted to be a keynote speaker in this symposium, and will share with us his knowledge and expertise which will be mutually beneficial for learning among international and local delegates. For more detailed information, please visit the symposium website at <http://www.regmaster.org/ilas2009>.

c. The AFIP's Descriptive Path Course, Now in Its 18th Year, Returns to Europe and the U.S. in 2009!

The AFIP will hold its vaunted Descriptive Veterinary Pathology course in Europe and the United States this year. This course will be held from 18–22 May in Barcelona, Spain at the Facultat de Veterinaria, Universitat de Autonomia Barcelona, and from 1–5 June at the Wyndham Beach Resort in Virginia Beach, VA. Attached please find the brochures for these courses in .PDF format. The syllabus will be made available to participants through Ask AFIP at www.askafip.org.

For more information and registration, please visit Ask AFIP at http://www1.askafip.org/portal/page?_pageid=33,436952,33_450905&_dad=portal&_schema=PORTAL.

Bruce Williams, DVM

Course Director

d. International Course on Laboratory Animal Science III

Vari, Greece. 21 September–2 October, 2009

A two-week intensive course on laboratory animal science will be organized at the B.S.R.C. Alexander Fleming—Vari, Greece in September 2009. The objective of this course is to present basic facts and principles that are essential for the humane use and care of animals and for the quality of research. The contents of the course are in line with recommendations of the Federation of European Laboratory Animal Science Associations (FELASA) regarding the training of the young scientists whose research involves the use of vertebrate animals. For information and application forms, please contact:

Marie Kamber, DVM

E-mail: kamber@fleming.gr

Web: <http://www.fleming.gr>

e. 23rd Annual Charles River Short Course on Laboratory Animal Science!

June 15–18, 2009, Sheraton Ferncroft—Danvers, MA.

The 2009 Short Course packs an enormous assortment of laboratory animal expertise and resources into just four days. With multiple tracks to choose from and more than 60 topics that are presented by members of Charles River's professional staff and guest speakers, attendees are able to receive up to 22 American Association of Veterinary State Boards Continuing Education Credits. Attendees can “jump” tracks at any time to maximize the most out of the schedule. To view the invitation and symposium details, use the link below. Please note that the registration link will be broken if you try to forward it. The registration site is www.criver.com/shortcourse09.

f. Replacement of Mammalian Models: the Role of in Vitro Techniques with Fish and Invertebrates

Glasgow SECC, Sunday 28th–Monday 29th June

2009.

The overall aim of this symposium is to seek new opportunities for the replacement of mammalian models by drawing together the long standing expertise of the comparative physiologists who pioneered and developed in vitro systems in non-mammalian species, and to share this expertise with the toxicology community including mammalian toxicologists, ecotoxicologists, policy makers and regulators, who are increasingly interested in the role of alternative models in hazard assessment. This meeting is organised by popular demand, following a session held on in vitro techniques at the Society for Experimental Biology (SEB) annual meeting in 2007. The symposium in 2009 will gather the most up-to-date information on in vitro techniques with fish and invertebrates, and explore the applications of this work in fundamental toxicology research and the regulatory arena. The symposium will be held in Glasgow at the Scottish Exhibition & Conference Centre (SECC) and hosted during the SEB's annual conference which runs 28th June to 1st July 2009.

The abstract submission and conference registration will be available online at the SEB website from December 2008, <http://www.sebiology.org/meetings/index.php> for the meetings page. Scientific enquiries to the organising committee can be made to Dr. Richard Handy at the University of Plymouth (rhandy@plymouth.ac.uk), and booking enquiries to the SEB office (Kate Steel, kate.steel@sebiology.org).

2. 出版

a. European "3R's" Website

The European Commission has launched a new Website, the "Tracking System for Alternative Test Methods Review Validation and Approval (TSAR)", designed to track the development of new alternative test methods which should replace, reduce, and refine current animal testing. The Website, ihcp.jrc.ec.europa.eu/tsar, is managed by the Joint Research Centre's Institute for Health and Consumer Protection.

The European Centre for the Validation of Alternative Methods' also has a Database on Alternative Methods at ecvam-dbalm.jrc.ec.europa.eu.

b. IPS Guidelines

The second edition of The IPS International Guidelines for the Acquisition, Care and Breeding of Nonhuman Primates is available, in English, French, and now Spanish, from the International Primatological Society at www.internationalprimatologicalsociety.org/publications.cfm.

c. Internet Archive

If you are a fan of old books and/or the history of our field, there are some interesting items now available in their full text entirety on the internet. I took some time over the holidays to look through the materials made available through the Internet Archive (www.archive.org) to see what was relevant to laboratory animal medicine. The books are available in a variety of formats for either online browsing (as images or text) or high-quality download as .pdf documents. Optical character recognition has been performed, so both the online "flip books" and the full .pdf files are searchable.

There are quite a few items available, but here are a few specific examples:

1) Considering the changes in health status, diet formulation, etc. since 1915, these data sets from early Wistar rats might not be directly comparable to contemporary rats in terms of growth rates, age/size statistics, etc. but this book devotes a lot of analysis to relative relationships, which are more likely to be maintained. There have been many COMPMED queries asking for information on organ weights and other anatomic values, and the tables and formulas in this book could still be very useful. A few examples are listed after the table of contents.

<http://www.archive.org/details/ratreferencetabl00dona>
THE RAT [Reference Tables And Data For The Albino Rat (*Mus norvegicus albinus*) And The Norway Rat (*Mus norvegicus*)] 1915

Donaldson, Henry Herbert

From the MEMOIRS OF THE WISTAR INSTITUTE OF ANATOMY AND BIOLOGY

2) This text should need no introduction:

<http://www.archive.org/details/biologyoflaborat00rosco>
BIOLOGY OF THE LABORATORY MOUSE, 1941
By the staff of the Roscoe B. Jackson Memorial

Library

Clarence C. Little, Director

George D. Snell, Editor

This is the first edition. There is also a webinized version of the second edition of this classic text online (courtesy of Jackson Informatics), which is a quicker and better way to get to the content, although you lose the "feel" of reading from the original pages:

BIOLOGY OF THE LABORATORY MOUSE, 2nd Edition

Earl L. Green, Ed, 1966

<http://www.informatics.jax.org/greenbook/index.shtml>

3) Not all of the materials available are written. There is an audiovisual section as well, and it has films and videos available in a variety of formats for streaming or download. This selection from the Moving Pictures section of the archive is very interesting:

<http://www.archive.org/details/gov.ntis.ava20697vnb1>
United States Army PMF 5322:

ANIMALS FOR RESEARCH: Establishing And Maintaining A Disease-Free Animal Colony. 1957

This is a 27-minute color training film with live-shot footage of a variety of species, but focusing on barrier-maintained rodents. It depicts a step-by-step walk through of the SOPs in place in a military vivarium in the 1950's (including the process of cesarean rederivation). Nice snapshot of the practices at the time in a modified barrier. Some procedures are dated, but the principles are the same. For example, COMPMED postings have included tips and tricks for maternal acceptance during cross-fostering, but I don't recall that lacing the bedding with "coal tar products" is a recommended practice anymore... Surgical footage is high-quality.

<http://www.youtube.com/watch?v=2VQNYOVISnU>

4) Three other texts that might be of interest:

<http://www.archive.org/details/laboratorymousei00keel>
THE LABORATORY MOUSE [Its Origin, Heredity, And Culture]. 1931

Keeler, Clyde Edgar

<http://www.archive.org/details/bensleyspractica00bens>
BENSLEY'S PRACTICAL ANATOMY OF THE RABBIT [An Elementary Laboratory Text Book in Mammalian Anatomy]. 8th Ed. 1948

Craigie, Edward Horne Ed.

<http://www.archive.org/details/principlesoffunc00crab>
PRINCIPLES OF FUNCTIONAL ANATOMY OF THE RABBIT. 1931

Crabb, Edward Drane

5) Google is publishing out-of-print books online (many lab animal & veterinary-related as well as other topics) at <http://books.google.com/>.

3. ICLAS 会議

a. ICLAS 理事会

2009年 ICLAS 理事会が2009年6月にウルグアイで開催予定の「Biomodels applied in development and technological innovation」にあわせて開催される。

ICLAS, FESSACAL, ACCMAL Meeting

June 2-5, 2009

Organizing Committee

President: Laura Dominguez, Uruguay

Contact: <http://badit.fq.edu.uy>

b. ICLAS FYI Bulletin

ICLAS FYI Bulletinの受信者を更新中です。受信希望者は氏名、メールアドレスを送ってください。

I am in the process of updating the list of recipients of the ICLAS FYI Bulletin. Please let me know if you wish your name to be removed or if you would like to have individuals added. Please send me names and email addresses if you wish to add colleagues to the list.

Steven P. Pakes, DVM, PhD

Professor of Pathology, UTexas Southwestern Med. Ctr.
5323 Harry Hines Blvd. Dallas, TX 75390-9072

E-mail: steven.pakes@UTSouthwestern.edu

Phone: 214-648-1684

Fax: 214-648-4096

URL: <http://www.iclas.org>

Experimental Animals

— 和文要約 —

Vol. 58, No. 2 April 2009

総説序文

レビューシリーズ：我が国における動物バイオリソースの現状

はじめに 73

小幡裕一¹⁾・米川博通²⁾

¹⁾NBRP 推進委員, 理化学研究所バイオリソースセンター,

²⁾Experimental Animals 編集委員長, 財団法人東京都医学研究機構・東京都臨床医学総合研究所

ナショナルバイオリソースプロジェクトに代表されるように, 我が国でも我が国独自のバイオリソースに関する関心が高まり, より良いバイオリソースに対し国を挙げて整備しようという機運が高まっている。この様な現状のもと, 当学会としてもこれらのバイオリソースの広範な利用とより良い実験動物としての樹立を目指し, 我が国における動物バイオリソースの現状を解説するレビューシリーズを企画した。本シリーズでは,

1. 我が国独自の動物バイオリソースの現状を広く世界に紹介すること,
2. 線虫, ショウジョウバエ等, 一般的に実験動物科学の対象と見なされていない動物の遺伝子ホモログ検索等を通じた実験動物科学への応用の促進と発展, 等を目的としている。

そのため, NBRP 中核機関の代表者並びに NBRP 外でバイオリソース整備を実施している機関の代表者に執筆を依頼し, 今後約一年間の歳月をかけ本シリーズを公表することにした。本シリーズが読者各位の研究に意義あるものとなり, ひいては実験動物科学の発展に繋がることを強く期待する。

総説

レビューシリーズ：我が国における動物バイオリソースの現状

ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) 情報センター 75-84

山崎由紀子・菅原秀明

国立遺伝学研究所

ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) は, ライフサイエンスの実験研究に使われるバイオリソースの「収集・保存・提供」およびその「情報公開」の体制整備を目的とした文部科学省の国家プロジェクトである。2008年12月現在, 27のリソース機関と1つの情報センターがプロジェクトを推進している。情報センターの主な役割は, リソース機関と共同でバイオリソースデータベースを構築し, 広く情報公開することであるが, 単に情報を一方的に提供するだけでなく, それを使って得られた研究成果をフィードバックすることによってリソ

スの付加価値を高め、更にリソースの利用を促進するという正の循環を実現する「要」としての役割も担っている。本プロジェクトが扱うリソースの主体は「増殖して配布可能なもの」であるが、一方で「地球を構成するすべての生物」もまた広義のバイオリソースと考えることができる。地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) という国際プロジェクトでは世界中の生物標本や観察データを収集して提供することを目標に活動を進めており、日本も一翼を担っている。NBRP 情報センターでは GBIF の日本ノードの活動もサポートしている。本稿ではこのような NBRP 情報センターの活動と構築したデータベースの利用方法について解説する。

レビューシリーズ：我が国における動物バイオリソースの現状

理研バイオリソースセンターのマウスリソース 85-96

吉木 淳・池 郁生・目加田和之・北浦靖之・中田初美・平岩典子・持田慶司・
伊集院麻衣子・門田雅世・村上亜弓・小倉淳郎・阿部訓也・森脇和郎・小幡裕一
理化学研究所バイオリソースセンター

マウスリソースは各種近交系、ゲノム情報、個体レベルの遺伝子操作法、胚・精子の凍結保存法等が揃っており、ヒトの健康と病気の原因解明を目的としたライフサイエンス研究において最も重要なモデル生物となっている。このため世界各国で網羅的遺伝子ノックアウトマウスの開発が開始された。理研 BRC は 2001 年に公的な唯一の総合的バイオリソース機関として設立され、2002 年からはナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) のマウス中核機関として活動してきた。理研 BRC は欧米のマウスリソースセンターと共に Federation of International Mouse Resources (FIMRe) を設立し、International Mouse Strain Resource (IMSR) を通じてマウスリソースを世界に発信している。研究コミュニティの多大な支援を受けて各種近交系、先導的な遺伝子操作系統、野生マウス由来系統および ENU ミュータントを含むモデルマウスを 3,800 系統収集した。公的研究機関だけでなく企業からの優れたモデルの寄託を受け、研究者に提供している。研究ニーズ、社会ニーズに応じて、寄託マウスの清浄化 (SPF 化)、厳格な微生物学的検査、操作された遺伝子及び遺伝的背景の正確な検査を実施している。利用者はインターネットを通じて容易にマウス系統を検索し、低額利用料金でマウスを入手できる。増加するマウスリソースを効率的に保存する方法として胚・精子の凍結保存を実施している。理研 BRC は国内研究者が世界中のマウスリソースを活用できるよう FIMRe 機関と協力している。

レビューシリーズ：我が国における動物バイオリソースの現状

細胞性粘菌：モデル真核微生物 97-104

漆原秀子

筑波大学大学院生命環境科学研究科

細胞性粘菌は土壤中に棲息する真核微生物で、通常は単細胞アメーバとしてバクテリアを捕食しながら分裂増殖している。一方、飢餓状態になると集合し、多細胞化して胞子と柄細胞への細胞分化を伴う子実体を形成する。この単細胞アメーバが条件によっては多細胞体制をとる特異な生活環から、吞食作用、細胞分裂、走化性運動、細胞間コミュニケーション、細胞分化、形態形成といったさまざまな基本的生命現象の研究にとって魅力ある研究材料となっている。代表的な種である *Dictyostelium discoideum* (和名キイロタマホコリカビ) は、培養や人為的発生等の実験操作がきわめて容易であることに加えて、ゲノム、cDNA の情報が整備されており、

新しく開発される分子生物学的手法がほとんど問題なく適用可能になる等、モデル生物としての優れた特質を備えている。また、ヒトの疾患に関係する遺伝子のオルソログを多く含む。これまでに、走化性の分子機構、細胞分化誘導因子に対する応答、脱分化現象等々について多くの重要な成果が発表されているが、近年は病原微生物との相互作用についての研究も大きく展開されている。標準株と各種の変異株、遺伝子DNA等の細胞性粘菌リソースは、ナショナルバイオリソースプロジェクトの中核拠点 (NBRP-nenkin) によって維持管理され、国内外の細胞性粘菌研究者はもとより、新しい実験系の導入や系統進化等に興味のある新規ユーザーを支援するために、リクエストに応じて広く提供されている。

原著

ミュータントマウス *Pax6^{Sey-4H}* の血中グルコース濃度の変動 105-112

新田由美子¹⁾・重吉康史¹⁾・中瀧直己²⁾・金子武人²⁾・新田耕作³⁾・原田俊英⁴⁾・石崎文字⁵⁾・Jana TOWNSEND⁶⁾

¹⁾近畿大学医学部解剖・神経科学教室, ²⁾熊本大学動物資源研究開発センター, ³⁾三朝会社会福祉施設クリニック, ⁴⁾広島国際大学医療福祉学部医療経営学科, ⁵⁾県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科, ⁶⁾鈴峯女子短期大学言語文化情報学科

ミュータントマウス *Pax6^{Sey-4H}* の遺伝子型と表現型を検索した。これまでに、遺伝子型について、染色体2番ゲノムのヘミ欠失領域が102.6 Mbから109.2 Mbであること、この領域から中心体側へ順に *glucose-6-phosphatase* 遺伝子, *glucagon* 遺伝子, *carboxyl ester lipase* 遺伝子が配列している事を報告してきた。表現型について、膵管過形成と消化管腺癌、放射線感受性も報告した。この論文では、*Pax6^{Sey-4H}* の糖代謝について報告する。耐糖能テストを行ったところ、ミュータントマウスは血中グルコース濃度の急上昇に対する反応に遅れを示した。インスリン投与テストでは、ミュータントマウスは血中グルコース濃度の急降下から回復できなかった。ストレプトゾトシンによる糖尿病誘発テストにおいて、短期間で高血糖値状況を誘発できた。以上のことから、ミュータントマウス *Pax6^{Sey-4H}* はヒトの慢性膵炎型糖尿病に類似した表現型を呈し、糖尿病誘発に高い感受性のあることが判った。ミュータントマウス *Pax6^{Sey-4H}* は、転写因子をコードする *Pax6* 遺伝子のヘミ欠失が糖代謝関連遺伝子へどのような転写影響を及ぼしているかを検索し、且つ、もう一つのミュータントマウス *Pax6^{Sey-3H}* の場合と比較する事で、隣接遺伝子症候群の理解に繋がる実験モデルである。

ストレプトゾトシン誘発糖尿病APAハムスターの大動脈における

小胞体ストレス 113-121

黒川正樹・秀嶋 信・石井寿幸・久和 茂・吉川泰弘

東京大学大学院農学生命科学研究科実験動物学

最近、動脈硬化症に小胞体 (ER) 機能不全やタンパク質の折り畳み異常が関連しているといわれている。我々は本研究において、ERストレスがストレプトゾトシン誘発糖尿病APAハムスターの動脈硬化症に関連しているか、またそのERストレスに対して化学シャペロンの1つであるフェニル酪酸ナトリウム (4-PBA) が有効か否かについて検討した。8週齢、雄のAPAハムスターにストレプトゾトシン (30 mg/kg) を投与し、糖尿病を誘発した。ERストレスは、*calreticulin* や *GPR78* などのERストレスマーカーの発現を免疫組織化学法およびRT-PCR法で解析し、評価した。なお、対照群にはクエン酸緩衝液を注射し、同様の方法で解析した。その結

果, 対照群の大動脈弓ではERストレスマーカーの発現は軽度であった。対照群への4-PBA処理は大動脈弓でのcalreticulinやGPR78の免疫染色陽性部位を減少させ, またそれらのmRNAの発現レベルを低下させた。一方, ストレプトゾトシン誘発糖尿病APAハムスターの大動脈弓では強いERストレスマーカーの発現がみられたが, 4-PBA処理によるERストレスの軽減や動脈硬化病変の改善は認められなかった。これらの結果は, 糖尿病に伴う動脈硬化症は複雑な病因により形成されること, および動脈硬化症には多様な病型が存在することを説明していると考えられる。

日本産野生マウスに由来する独自の近交系統MSM/Ms..... 123-134

森脇和郎^{1,2)}・宮下信泉³⁾・三田晃彦¹⁾・後藤英夫⁴⁾・土屋公幸⁵⁾・加藤秀樹⁶⁾・
目加田和之²⁾・野呂千加子⁷⁾・太田聡史²⁾・吉木 惇²⁾・小幡裕一²⁾・米川博通⁸⁾・
城石俊彦¹⁾

¹⁾国立遺伝学研究所, ²⁾理研筑波研究所バイオリソースセンター, ³⁾香川大学医学部,

⁴⁾農業生物資源研究所, ⁵⁾株式会社応用動物, ⁶⁾浜松医科大学, ⁷⁾日本大学医学部,

⁸⁾東京都臨床医学総合研究所

医学生物学研究用実験用マウスの主なゲノムは*domesticus*亜種群に由来するので, これと遺伝的な隔たりの大きい*musculus*亜種群に由来する近交系は, 生命機能や疾患を研究する独自のモデルとなる可能性がある。この観点から*musculus*亜種群の日本産亜種*Mus musculus molossinus*から近交系統を育成した。このマウスは1978年に三島市で採集され, 1年間は土を入れたポリバケツで集団繁殖させたが, 1979年に兄妹交配による系統育成を始め, 1986年近交系となり, 1993年SPF化され, 2007年F₁₀₀に達した。この間リッターサイズに大きな変化はなかった。染色体Cバンドおよび17種の生化学的標識遺伝子の内7種は*musculus*亜種群型であった。MITマイクロサテライト・マーカーから, 従来の系統と差異の大きい50種を選んで解析した。遺伝子系統樹上MSMは*musculus*亜種群に属する。この系統については, 既に多数の特異な遺伝的特性の報告があり, またC57BL/6系統との間でのコンソミック系統群の開発, ゲノム全塩基配列の解析等も報告され, 独自の実験用系統として大きい価値をもつ。

実験感染および自然感染マウスからのマウスノロウイルス核酸の検出..... 135-140

後藤一雄・林元展人・保田昌彦・石田智子・亀田周子・高倉 彰・伊藤豊志雄

財団法人実験動物中央研究所

マウスノロウイルス(MNV)核酸検出のためのRT-PCRを実施した。MNVを経口感染させたICRおよびscidマウス各3匹にそれぞれ同居させた同系統のマウスではその糞便および盲腸から同居56日まで核酸が検出された。また経口感染させたNOD-scid由来胎児からは本ウイルスは検出されず, 帝王切開によるウイルス除去が可能であることが示された。59施設由来245匹のマウスからは15施設33匹からウイルス検出され, わが国におけるMNV汚染が初めて確認された。

C57BL/6 亜系統間の遺伝的相違について..... 141-149

目加田和之・阿部訓也・村上亜弓・中村哲枝・中田初美・森脇和郎・

小幡裕一・吉木 淳

理化学研究所バイオリソースセンター

C57BL/6 (B6) 系統は最もよく知られた近交系であり、コンジェニックや変異マウスの遺伝的背景として広く利用されている。B6 系統にはこれまでに多くの亜系統が育成され、それらの中には様々な表現型の違いが存在していることが報告されているが、医学生物学の分野におけるそれらの違いに関する認識は低い。そこで我々は、由来の異なる7つのB6 亜系統 (B6/J, B6/JJcl, B6/JJmsSlc, B6/NJcl, B6/NChCrIj, B6/NTac, B6/CrSlc) について、*Nnt* 遺伝子の機能欠損を調べるとともに、1,446カ所のSNPについて調査した。既に報告のあるB6/Jと同様、他の全てのB6/J 亜系統間で*Nnt* 遺伝子のエクソン7-11の欠失が認められ、この遺伝子の機能的欠損がB6/J 亜系統確立の初期に生じたものであることが示唆された。SNP解析の結果、B6/JとB6/N 亜系統の間で11遺伝子座においてSNPが確認された。また、B6/Jと他のB6/J 亜系統間で更に1つSNPが存在していた。一方、B6/N 亜系統間では遺伝的な違いは認められなかった。米国National Cancer Instituteを由来とするB6/CrSlcのSNPパターンはB6/N 亜系統のそれらと同じであった。これらのデータはB6 系統を背景とする遺伝子改変マウスの遺伝的背景を正確にモニターする上で大変有用な情報である。

FVB/N を遺伝的背景に持つマウスにおけるアロキサンの膵島β細胞障害作用に対する腹腔内穿刺刺激の影響..... 151-158

天尾弘実¹⁾・岩元レナ¹⁾・小向由美¹⁾・土橋 悠¹⁾・高橋公正²⁾・藤平篤志³⁾・仲間一雅¹⁾・遠山紀代子⁴⁾¹⁾日本獣医生命科学大学応用生命科学部実験動物学教室、²⁾日本獣医生命科学大学獣医学部獣医病理学教室、³⁾獨協医科大学動物実験センター、⁴⁾Unité de Neurobiologie de la croissance et de la sénescence, INSERM, France

CuZnスーパーオキシドジスムターゼ過剰発現トランスジェニック (Tg) マウスおよびその野生型FVB/N (non-Tg) マウスにおいて、事前に行った腹腔内穿刺刺激がアロキサンの膵島β細胞障害作用を抑制する現象が観察された。この現象は、アロキサン投与 (60 mg/kg) 後の血糖値の変化、尿糖陽性日数および膵β細胞の免疫組織学的検索により証明され、Tg マウスでは同腹のnon-Tg マウスに比べ、より顕著に観察された。腹腔内穿刺刺激を行わない場合においても、Tg マウスはnon-Tg マウスに比べアロキサンのβ細胞障害作用にやや抵抗性を示すことから、この違いがTgとnon-Tgとの反応性の相違に影響していると思われた。ICR マウスにおいては、この現象は全く見られなかったことから、この現象はFVB/N マウスの系統特異性であることが示唆された。

BALB/c マウスにおけるT細胞レセプターレパトア解析：組織・性別・週齢
およびヒドロコルチゾン投与による影響..... 159-168

北浦一孝¹⁻³⁾・金山喜一⁴⁾・藤井克樹¹⁾・塩原教之¹⁾・田中こなぎ¹⁾・
倉根一郎²⁾・鈴木さつき⁵⁾・伊藤恒敏⁶⁾・鈴木隆二¹⁾

¹⁾独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター, ²⁾国立感染症研究所ウイルス第一部,
³⁾筑波大学大学院人間総合科学研究科, ⁴⁾日本大学生物資源科学部, ⁵⁾日本歯科大学生命歯学部,
⁶⁾東北大学医学部

本研究ではBALB/cマウスの種々の組織におけるT細胞レセプター (TCR) レパトアを比較した。TCR α 鎖可変領域レパトアは、脾臓、皮下リンパ節、胸腺で一致した。TCR β 鎖可変領域 (TCRBV) レパトアは、脾臓と皮下リンパ節で一致したが胸腺では異なった。肺や腸管ではさらに異なる傾向を示した。雌雄間ではTCRBV15-1を除いて一致し、3週齢と7週齢間ではTCRBV1-1, 8-3, 14-1を除いて一致した。従ってマウスTCRレパトアが組織、性や週齢の影響を受けることを示唆する。またヒドロコルチゾン (HC) 投与により胸腺T細胞は1/10に減少し、TCRBV3-1, 5-1, 5-2, 16-1が減少した。しかしCD4⁺CD8⁺T細胞は一部残存し、TCRBV12-1は減少しなかった。これはHC感受性を示す未成熟T細胞がTCRファミリー間で異なることを示唆する。

ニワトリの長期 (28-48年) 閉鎖コロニー RIR-Y8/NU, BL-E, YL およびWL-G
における組織適合性評価..... 169-174

Marcos B. VALDEZ Jr.¹⁾・木下圭司²⁾・水谷 誠²⁾・藤原 哲³⁾・矢澤 肇³⁾・山縣高宏¹⁾・
島田清司²⁾・並河鷹夫^{1,2)}

¹⁾名古屋大学大学院生命農学研究科, ²⁾附属鳥類バイオサイエンス研究センター,
³⁾財団法人日本生物科学研究所

RIR-Y8/NU, BL-E, YL およびWL-Gの各ニワトリ閉鎖コロニー内における組織適合性を抗赤血球抗体による凝集試験 (HT), 皮ふ移植試験 (STT) およびSTTにおける同種免疫抗体産生 (FIHs) の有無によって評価した。YLは、調べた個体全ての移植片が17日以上活着し、FIHsも認められず、またHTにおいて個体間変異が発見されなかったことから、組織適合抗原性がコロニー内で均一であり、他の血液型関連遺伝子座の均一性も高いことを示した。同様に、BL-EとWL-Gも各コロニー内での組織適合抗原性が均一であることを示した。しかし、HTの結果はニワトリの組織適合性やFIHsに関与するBおよびC血液型遺伝子座以外の遺伝子座に個体間変異があることを示した。RIR-Y8/NUは相互移植試験6例 (12個体) 中の1個体がB遺伝子座アレルの相違により移植片の早期拒絶反応を示し、FIHsも認められた。また、HTの結果も他の血液型関連遺伝子座の変異性が比較的高いことを示した。RIR-Y8/NUはコロニー内に組織適合抗原性に変異が残っており、その均一化には選抜交配がなお必要であるが、YL, BL-EおよびWL-Gは組織移植や免疫に関連した実験などに利用できる有用な鳥類資源であることが判明した。

短報

タウリンの亜急性摂取の記憶・学習能への影響..... 175-180

伊藤公一・Matevž ARKO・川口友浩・桑原正貴・局 博一

東京大学大学院農学生命科学研究科比較病態生理学教室

タウリンを亜急性に経口摂取したWistarラットの記憶・学習における効果を、モリス水迷路試験を用いて検討した。遊泳時間及びその記憶・学習効率はタウリン摂取群と通常の水摂取群で有意な差は観察されなかった。遊泳距離はタウリン摂取群が水摂取群に比べ有意に大きかったが、その記憶・学習効率には差は観察されなかった。また、平均遊泳速度は最初の試行において有意な差が観察されたがその後は観察されず、探索戦略にも有意な差は観察されなかった。これらの結果から、タウリンの亜急性摂取は記憶・学習能に関与しないことが示唆された。

変形性膝関節症自然発症マウスSTR/Ortマウスにおける高脂血症、 高インスリン血症..... 181-187

内田健太郎¹⁾・占部 憲²⁾・成瀬康治²⁾・小川善資³⁾・馬淵清資¹⁾・糸満盛憲²⁾

¹⁾北里大学大学院医療系研究科医用生体工学, ²⁾北里大学医学部整形外科学,

³⁾北里大学大学院医療系研究科生体制御生化学

近年、変形性関節症と脂質代謝異常との関連性が注目されている。STR/Ortは高脂血症と変形性関節症の特性を持つことから、変形性関節症に対する脂質代謝異常の影響を検討するのに有用であると考えられる。しかし、STR/Ortの脂質代謝異常の特性についてはほとんど知られていない。本研究では、STR/Ortにおける脂質代謝異常と脂肪毒性について検討した。STR/Ortは高コレステロール血症、高トリグリセライド血症、高インスリン血症、遊離脂肪酸代謝異常、血清アディポネクチン低値など、ヒト高脂血症患者類似の病態を示した。またSTR/Ortは高インスリン血症を示したが、肝臓での過度のトリグリセライド蓄積は認められなかった。これらの情報は、STR/Ortマウスにおける脂質代謝異常と変形性関節症の関連性を検討する研究者に有用かもしれない。

マウスにおけるCAR Bacillusの伝播によるケージを分割する仕切り付き 新ケージ蓋の評価..... 189-192

小久保年章¹⁾・松下 悟²⁾

¹⁾独立行政法人放射線医学総合研究所基盤技術センター研究基盤技術部実験動物開発・管理課,

²⁾独立行政法人放射線医学総合研究所基盤技術センター

げっ歯類のケージを2分割する仕切り付きのケージ蓋を開発した。検疫時にこの蓋を使うことで、テストされるげっ歯類と健康なおとりげっ歯類を同一のケージで別々の区画に入れ、闘争を回避して飼育できる。この蓋を用い、マウスのカーバチルスの伝播を評価した。感染はケージ内伝播と同様に、微生物学的、血清学的、病理学的及び分子生物学的に確認され、開発したケージ蓋は、検疫や感染実験に非常に有用であることが証明された。

WKY ラットを用いた抗体誘発性糸球体腎炎の量的遺伝解析..... 193-198

小瀬博之^{1,4)}・佐渡義一²⁾・山田宣永³⁾・松本耕三¹⁾¹⁾徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部附属動物実験施設, ²⁾重井医学研究所免疫部門,³⁾京都大学大学院農学研究科応用生物科学動物育種学分野, ⁴⁾国際基督教大学教養学部生命科学
デパートメント

糸球体腎炎は腎不全の主要因であり, 多因子性疾患である。Wister-Kyoto (WKY) ラットは自己抗体により惹起される腎炎に対して高い感受性がある疾患モデル系統である。今回我々はWKY系統とDA系統を用いて作成した戻し交配第一世代に対して, whole genome scan QTL解析を行った。その結果, 第1, 12番染色体にそれぞれ尿中蛋白濃度と相対腎臓重量に関与する量的形質遺伝子座を同定した。



Experimental Animals

Japanese Association for Laboratory Animal Science

Manuscript Central® Author Manual

- ① Log In
- ② ③ Create an Account
- ④ Main Menu
- ⑤ Dashboard
- ⑥ Step 1: Type, Title, & Abstract
- ⑦ Step 2: Attributes
- ⑧ Step 3: Authors & Institutions
- ⑨ Step 4: Reviewers
- ⑩ Step 5: Details & Comments
- ⑪ ⑫ Step 6: File Upload
- ⑬ Step 7: Review & Submit
- ⑭ Submit 完了
- ⑮ Revised Manuscriptの作成
- ⑯ Decision Letterの確認
- ⑰ Revised Manuscriptの投稿
- ⑱ Revised ManuscriptのSubmit完了

投稿規定も確認の上、ご登録下さい。

2009/1/15

※Manuscript Central® Author Manual (カラー版PDFファイル) は下記URLよりダウンロードすることができます。

http://mc.manuscriptcentral.com/societyimages/ea/AuthorManual_EA.pdf

Experimental Animals
JALAS
Japanese Association for Laboratory Animal Science

Log In | Create Account | Get Help Now

scholarONE
Manuscript Central

Login

Log In Welcome to the *Experimental Animals* manuscript submission site.

- To Log In, enter your **User ID** and **Password** into the **Log in** section (upside boxes), then click "Log In".
- If you are unsure about whether or not you have an account, or have forgotten your password, enter your **E-Mail Address** into the **Password Help** section (downside box), then click "Go".
- If you do not have an account, click [Here](#).

Log In

Log in here if you are already a registered user.

Experimental Animals
JALAS

User ID:

Password:

Password Help. Enter your e-mail address to receive an e-mail with your account information.

E-Mail Address:

New User?
[Register here](#)

Resources

- [Instructions & Forms](#)
- [User Tutorials](#)
- [System Requirements](#)
- [Home Page](#)

Manuscript Central™ v4.11 (patent #7,257,767 and #7,263,655). © ScholarOne, Inc., 2008. All Rights Reserved.
Manuscript Central is a trademark of ScholarOne, Inc. ScholarOne is a registered trademark of ScholarOne, Inc.
[Terms and Conditions of Use](#) - [ScholarOne Privacy Policy](#) - [Get Help Now](#)

既にUser Accountが作成されており、ID/Passwordをご存知の場合

1. User IDとPasswordを入力します。
2. Log Inをクリックします。 → ④のページへお進みください。

User ID/Passwordが未登録の場合

- ・ **Create Account**をクリックし、新規にユーザーアカウントを作成します。
- ・ 登録するE-mailアドレスは、必ずご本人のものをご使用ください。
複数の方と共有しているアドレスは使用しないでください。

ID/Passwordがわからない(忘れてしまった)場合

- ・ E-mailアドレスを入力します。
- ・ Goをクリックすると、2~3分でご入力いただいたE-mailアドレスにIDと仮Passwordが発行され送られてきます。
- ・ Log inして、新パスワードを設定するとサイトに入れます。

2 Create an Account ①

Step 1: E-Mail / Name

必須項目 (req) をすべて入力してください。

The form contains the following fields:

- Name:**
 - req Dr. Miss Mr. Mrs. Ms. Prof.
 - First (Given) Name: Tom req
 - Middle Name: req
 - Last (Family) Name: Author req
 - Degree: req
- E-Mail:**
 - Primary E-Mail Address: author@jalas.or.jp req
 - Primary E-Mail Address (again): author@jalas.or.jp req
 - Primary Cc E-Mail Address: req
 - Secondary E-Mail Address: req
 - Secondary E-Mail Address (again): req
 - Secondary Cc E-Mail Address: req

Step 2: Address

The form contains the following fields:

- Primary Address:**
 - Institution: University of Experimen
 - Department: Experimental Animals
 - Address: 5-29-12-1103, Hongo req
 - Country: Japan req
 - State/Province: Tokyo
 - City: Bunkyo-ku req
 - Postal Code: 113-0033 req
 - Phone: req
 - Fax: req
- Secondary Address:**
 - Institution: req
 - Department: req
 - Address: req
 - Country: --- Select One ---
 - State/Province: --- Select One ---
 - City: req

Callout Box:

- Institution : 施設名
- Department : 部署名
- Address : 住所
- Country : 国名
- State/Province : 都道府県名
- City : 市 / 郡 / 東京23区名
- Postal Code : 郵便番号
- Phone : 電話番号
- Fax : Fax番号

3

Create an Account ②

Step 3: User ID & Password

1 E-Mail / Name
2 Address
3 User ID & Password

Previous Finish

User ID / Password
 User ID: author req
 Password: req
 Confirm Password: req

Keywords
 Social Behavior
 Adiponectin

Special Characters

Category
 Search on this list:
 Anatomy req
 Animal breeding
 Bacteriology
 Biochemistry req
 Embryo manipulation
 Environments
 Equipment
 Ethology
 Experimental methods
 Genetic engineering

Unavailable Dates
 If you are planning on being unavailable for a period of time, enter the dates in the boxes below.
 From: To:

Signature. The journal can choose to use the text you enter in this field in e-mail correspondence.

Please do NOT upload your manuscript in this area. Once you have finished creating your account, you may enter your Author Center to submit a new manuscript.

Attach Files attached
 No files have been uploaded.

Previous Finish

User IDは、初期値ではE-mailアドレスが入力されますが、好きなID名に変更が可能です。

ご自身の専門分野に関するKeywordを1つ以上入力します。

該当するCategoryを選択し、Addボタンを押して右のフィールドに追加します。

すべての登録情報を確認し、Finishボタンを押します。

ユーザー・アカウント作成完了

Create an Account

You have successfully created an account. You may now [log in](#).

ユーザー・アカウントの作成が完了しました。
[Log in](#)をクリックし、論文の投稿を行います。

4 Main Menu

Experimental Animals JALAS
Japanese Association for Laboratory Animal Science

scholarONE Manuscript Central

Main Menu | Site under review. | You are logged in as Tom Author

Welcome Welcome to the *Experimental Animals* manuscript submission site. The center links below indicate which "roles" you can currently perform for the journal. Click on a link to begin working in the role (e.g., Author, Reviewer, etc.) in Manuscript Central. You can return to this screen to change centers at any time by clicking on the "Main Menu" link above.

Resources

- Instructions & Forms
- User Tutorials
- System Requirements
- Home Page

Author Center

Author Center をクリックします。

5 Dashboard

Experimental Animals JALAS
Japanese Association for Laboratory Animal Science

scholarONE Manuscript Central

Main Menu → Author Dashboard | Site under review.

Dashboard

- To submit a new manuscript, click
- Clicking on the various manuscript manuscripts in that status at the b
- To continue a submission already in progress, click the "Continue Submission" link in the "Unsubmitted Manuscripts" list.

My Manuscripts

- 1 Unsubmitted Manuscripts
- 0 Revised Manuscripts in Draft
- 0 Submitted Manuscripts
- 0 Manuscripts with Decisions
- 0 Manuscripts I Have Co-Authored
- 0 Withdrawn Manuscripts
- 0 Invited Manuscripts

Author Resources

Click here to submit a new manuscript

This section lists the subjects of the five most recent e-mails that have been sent to you regarding your submission(s). To

ここをクリックすると、新規入力フォームが作成されます。初めの場合、まずここをクリックします。

Unsubmitted Manuscripts

Manuscript Title	Date Created	Continue Submission	Delete
(No Title Entered) [View Submission]	08-Dec-2008	<input type="button" value="Continue Submission"/>	<input type="button" value="Delete"/>

作成途中原稿の入力を再開するときは、上のMy ManuscriptsのUnsubmitted Manuscriptsをクリックし、Continue Submissionをクリックします。

6 Step 1: Type, Title, & Abstract

Step ①～⑥を全て入力し、最後のStep ⑥で登録内容をPDFで確認すると投稿が出来ます。
Stepを移動することに入力情報がサーバに保存されます。入力を途中で止めても、再度Log Inして入力を再開することができます。

Manuscript Type
プルダウン・メニューから適切な種別を選択します。

Title
100word以内で入力します。

Running Head
40文字以内で入力します。

Abstract
240word以内で入力します。

7 Step 2: Attributes

Keyword 入力制限数：1～5
この論文のKeywordを入力します。

Category 入力制限数：1
この論文のCategoryをプルダウンリストから選択します。

8

Step 3: Authors & Institutions

1 Type, Title, & Abstract

2 Attributes

3 **Authors & Institutions**

4 Reviewers

5 Details & Comments

6 File Upload

7 Review & Submit

My Co-Authors					
Order	Name	Institution, Department	E-Mail	Edit	Delete
1	Author, Tom	None Provided	author@jalas.or.jp		

req E-Mail:

req First (Given) Name: Middle Name: req Last (Family) Name:

req Sal.

Institution: Department:

req Country: Japan

State/Province: req City:

If you have multiple Institutions and author, click [here](#).

Co-authorがすでにシステム内に登録されている場合、入力作業を省略することができます。追加する著者のE-mailアドレスを入力し、Findをクリックしてください。著者が見つると、著者の情報が自動入力されます。

• 氏名、所属等の情報を入力して、Add to My Authorsボタンを押すとCo-authorが登録されます。

9

Step 4: Reviewers

この論文の査読をして欲しいReviewer、して欲しくないReviewerを指定してください。該当Reviewerが特にない場合は、空欄でも結構です。
 ※最終的なReviewerの選任は、編集委員によって決定されますのでご了承ください。

1 Type, Title, & Abstract

2 Attributes

3 Authors & Institutions

4 **Reviewers**

5 Details & Comments

6 File Upload

7 Review & Submit

My Reviewers						
Name	Institution	Department	Phone/E-Mail	Preference	Edit	Delete
No Reviewers Entered						

req First (Given) Name: req Last (Family) Name: req Email:

Institution: Department: Phone:

Designate as Preferred Reviewer Designate as Non-Preferred Reviewer

入力には、First Name, Last Name, Emailが必須項目です。
 入力後、どちらかのボタンを押してください。

- 希望する場合は、Designate as Preferred Reviewer
- 拒否する場合は、Designate as Non-Preferred Reviewer

10 Step 5: Details & Comments

1 Type, Title & Abstract

2 Attributes

3 Authors & Institutions

4 Reviewers

5 **Details & Comments**

6 File Upload

7 Review & Submit

Cover Letter

カバーレターを入力します。

Attach another file containing your cover letter:

Files attached
 No Files Attached

Manuscript Information

Number of Figures:

Number of Color Figures:

Number of Tables:

Has this manuscript been submitted previously?

Yes

No

If yes, what is the manuscript ID of the previous submission?

Are you willing to pay the journal's fee for color reproduction?

Yes

No

N/A

Confirm the following:

Confirm that the manuscript has been submitted solely to this journal and is not published, in press, or submitted elsewhere.

Confirm that all the research meets the ethical guidelines, including adherence to the legal requirements of the study country.

Do you have any conflict of interest?

Yes

No

If yes, please state:

カバーレターをファイルで添付したい場合は、「参照...」でファイルを指定してから、「Attach this Cover Letter」ボタンを押します。
※日本語を使用する場合は、なるべくファイルに記述いただきますようお願い致します。

図の数、カラー図の数、表の数をそれぞれ入力します。

この論文の内容が以前投稿したものである場合は、Yesを選び、その時のManuscript IDを入力します。

カラーの図に対する印刷費用支払いを承認する場合は、Yesを選びます。承認しない場合は、Noを選びます。その場合、カラーの図はモノクロで印刷されます。カラーの図がない場合は、N/Aを選びます。

設問に対して、チェックをします。

論文の内容が利害関係に抵触する場合は、Yesを選び、その内容を記述します。

Step 6: File Upload ①

この画面では論文ファイルのアップロードを行います。

- “参照...”ボタンでファイルを指定し、右の“File Designation”でそのファイルの属性を指定します。
- “Upload Files”ボタンを押すとファイルがアップロードされます。
- 一度にアップロードできるファイル数は3つまでです。4つ以上ファイルがある場合は、回数を分けてアップロードします。
- 各ファイル名は以下のように設定してください。(Authorは著者名)
例) Author.doc、Author_Fig1.tiff、Author_Table1.xls、Author_Abst_J.pdf

論文 (Main Document)

- アップロードするファイルには、画面で登録したTitle、Abstract、Author、Keyword等も含めます。

図表 (Table、Figure)

- 1つのイメージにつき1ファイルで作成します。
(Excelなどで、1ファイルに複数のワークシートを統合しないでください。Power Pointも同様。)

日本語Abstract (Abstract (Japanese))

アップロード可能なファイルフォーマット

- DOC、RTF、JPEG、GIF、TIFF、EPS、XLS、PPT、Microsoft Office 2007ファイル
※ファイル名には必ず拡張子を付けてください。(拡張子がない場合、PDFにページが作成されません。)

12 Step 6: File Upload ②

File Details

Below you will find information about the file(s) you just uploaded. If you have not already done so, please select the File Designation for this file from the "File Designation" dropdown below.

If you have uploaded image or figure files you may link particular words in your text file to your image file. Simply type the word you wish to link into the "File Tags" field below. For example, if you want to link the phrase "Figure 1" to this particular figure then type "Figure 1" into the file tag field. When you look at the HTML proof of your manuscript you will be able to click on the phrase "Figure 1" and then see the figure.

You may also type in a caption or legend for each one of the images or figures you upload. The caption or legend you type in the "Caption/Legend" field below will appear below your figure.

このイメージファイルにリンクさせたい論文本文中の文字を入力します。

例えば、"Fig. 1"と入力すれば、原稿をHTML proofで見たときに、本文ドキュメント内の"Fig. 1"という文字をクリックすると、このイメージファイルが表示されるようになります。

このイメージファイルについてのCaption / Legendを入力します。
 ※Word, Excel, PowerPointファイルの場合、Caption / Legendの入力内容はPDFに表示されません。
 ※Caption/Legendは必ずMain Documentにも記載してください。

Nextボタンを押します。

アップロードが完了すると、アップロードされたファイルが一覧表示されます。リストの左にあるOrderでファイルの掲載順を以下の通りに並べ換えます。

1) Main Document → 2) Table → 3) Figure → 4) Abstract (Japanese)

並べ替えが終わったら、Save File Order ボタンを押します。

1 Type, Title, & Abstract

2 Attributes

3 Authors & Institutions

4 Reviewers

5 Details & Comments

6 File Upload

7 Review & Submit

Save and Go Back Save and Continue

My Files (Uploaded files cannot exceed 60000K)

Order	File Name	File Designation (req)	Date	Ed	Del
1	document.doc (86K)	Main Document	17-Dec-2008		
2	table1.xls (14K)	Table	17-Dec-2008		
3	Figure1.gif (15K)	Figure	08-Jan-2009		
4	AuthorTom_Abst_J.pdf (97K)	Abstract (Japanese)	08-Jan-2009		

不要なファイルは、必ずDeleteボタンを押して削除してください。

Save File Order HTML PDF

File Upload

Upload new files:

File Designation: Select:

File Designation: Select:

File Designation: Select:

Files to be sent in off-line

If you plan on submitting files off-line, enter the number of files, then click the "go" button to enter about those files.

さらにファイルを追加する場合は、前頁と同様の操作を繰り返します。

Save and Go Back Save and Continue

Step 7: Review & Submit

これまで登録した内容を確認します。

1 Type, Title, & Abstract
2 Attributes
3 Authors & Institutions
4 Reviewers
5 Details & Comments
6 File Upload
7 Review & Submit

Save and Go Back Submit

My Manuscript Information Edit

Step 1: Type, Title, & Abstract Edit

Manuscript Type: Full Paper

Title: Maternal Environment Alters Social Interactive Traits But Not Open-Field Behavior in Fischer 344 Rats

Running Head: MATERNAL ENVIRONMENT ALERTS BEHAVIOR IN F344 RATS

Abstract: Although it is recognized that the genetic background governs behavioral phenotypes, environmental factors also play a critical role in the development of various pups, a life exp on beha (Cri)W Wistar d F344. A social in the activity during the first 1 min was significantly lower in F344 rats than in Wistar rats. Latency to the onset of movement showed no difference between groups. In the social interaction test, the recognition performance during the first 1 min in F344 raised by F344 was significantly shorter than that in the other groups. The onset of recognition to a novel social partner in F344 raised by F344 was significantly delayed, and the delay disappeared upon cross-fostering by Wistar dams. These results raise the possibility that the behavioral phenotype of F344 rats results from the interplay of genetic factors and maternal environment during early life, and that F344 rats are a strain with high susceptibility to rearing conditions for the formation of their emotionality.

正しく登録されている箇所には、チェックが付きます。正しくない箇所には×が付きますので、そのStepに戻って修正をします。

Step 2: Attributes Edit

Keywords: cross-fostering, F344 rats, social behavior

Category: Environments

Step 3: Authors & Institutions Edit

1. Author, Tom

Step 4: Reviewers Edit

My Reviewers: No Reviewers Entered

Step 6: File Upload Edit

1. document.doc
2. table1.xls
3. Figure1.gif

Step 7: Review & Submit

HTML PDF View MedLine Format

Save and Go Back Submit

HTMLボタン・PDFボタンを押し、それぞれ確認します。PDF画面で論文中に文字化けがないか必ずご確認ください。すべての項目にチェックが入ったら、画面最下部の“Submit”を押し投稿します。

Experimental Animals
JALAS
Japanese Association for Laboratory Animal Science

Edit Account | Instructions & Forms | Log Out | Get Help Now

scholarONE
Manuscript Central

Main Menu → Author Dashboard → Submission Confirmation

Site under review. You are logged in as Tom Author

Submission Confirmation

Thank you for submitting your manuscript to *Experimental Animals*.

Manuscript ID:	EA-08-0004
Title:	Maternal Environment Alters Social Interactive Traits But Not Open-Field Behavior in Fischer 344 Rats
Authors:	Author, Tom
Date Submitted:	08-Dec-2008

Manuscript Central™ v4.11 (patent #7,257,767 and #7,263,655). © ScholarOne, Inc., 2008. All Rights Reserved.
Manuscript Central is a trademark of ScholarOne, Inc. ScholarOne is a registered trademark of ScholarOne, Inc.
[Terms and Conditions of Use](#) - [ScholarOne Privacy Policy](#) - [Get Help Now](#)

Submit 完了です。

- ① Submit完了の通知メールが送信されますのでご確認ください。
- ② **Return to Dashboard**を押して、Author Dashboardに戻ります。

【重要】ブラウザの“戻る”ボタンは絶対に使用しないでください。

Revised Manuscriptの作成

Revised Manuscript を作成するには、以下の手順に従ってください。

Experimental Animals JALAS Japanese Association for Laboratory Animal Science

scholarONE Manuscript Central

Site under review. You are logged in as Tom Author

Dashboard

- To submit a new manuscript, click on the "Submit a Manuscript" link.
- Clicking on the various manuscript status links under "My Manuscripts" will take you to a list of manuscripts in that status at the bottom of the page.
- To continue a submission already in progress, click the "Continue Submission" link under "My Manuscripts".

Author Dashboardの画面で、Manuscripts with Decisionsを押すと、下部に詳細が表示されます。

項目をクリックすると

My Manuscripts

- Unsubmitted Manuscripts
- Revised Manuscripts in Draft
- Submitted Manuscripts
- Manuscripts with Decisions
- Manuscripts I Have Co-Authored
- Withdrawn Manuscripts
- Invited Manuscripts

Author Resources

Click here to submit a new manuscript

This section lists the subjects of the five most recent e-mails that have been sent to you regarding your submission(s). To view an e-mail, click on the link. To delete an e-mail from this list, click the delete link.

Manuscript ID	Manuscript Title	Date Submitted	Date Decided	Status	Actions
EA-08-0004	Maternal Environment Alters Social Interactive Traits But Not Open-Field Behavior in Fischer 344 Rats [View Submission]	08-Dec-2008	09-Dec-2008	ADM: Kyorin_support * Minor Revision (09-Dec-2008) * due on 08-Jan-2009 (31 days left)	view decision letter create a revision (31 days left)

create a revisionを押すと、以下のダイアログが表示されますので、OKを押してrevision作成の作業ステップに進みます。

なお、このリンクは一度クリックすると消え、My Manuscriptsのリスト上ではRevised Manuscripts in Draftに数字が移動します。次回からはそちらからアクセスします。

http://mc.manuscriptcentral.com のページから:

A draft of your revision will now be placed in the 'Revised Manuscripts in Draft' list in your Author Center. Please note that some large manuscripts may require up to 90 seconds to complete this action. If you do not wish to create a draft revision, click the 'Cancel' button, otherwise, click 'OK.'

OK キャンセル

Decision Letterの確認

1 View and Respond to Decision Letter

2 Type, Title, & Abstract

3 Attributes

4 Authors & Institutions

5 Details & Comments

6 File Upload

7 Review & Submit

Save and Continue

Decision Letter
09-Dec-2008

Dear Dr. Author:

Manuscript ID EA-08-0004 entitled "Maternal Environment Alters Social Interactive Traits But Not Open-Field Behavior in Fischer 344 Rats" which you submitted to the Experimental Animals, has been reviewed. The comments of the reviewer(s) are included at the bottom of this letter.

The reviewer(s) have recommended publication, but also suggest some minor revisions to your manuscript. Therefore, I invite you to respond to the reviewer(s)' comments and revise your manuscript.

To revise your manuscript, log into <http://mc.manuscriptcentral.com/ea> and enter your Author Center, where you will find your manuscript title listed under "Manuscripts with Decisions." Under "Actions," click on "Create a Revision." Your manuscript number has been appended to denote a revision.

You will be unable to make your revisions on the originally submitted version of the manuscript. Instead, revise your manuscript using a word processing program and save it on your computer. Please also highlight the changes to your manuscript within the document by using the track changes mode in MS Word or by using bold or colored text.

Once the revised manuscript is prepared, you can upload it and submit it through your Author Center.

When submitting your revised manuscript, you will be able to respond to the comments made by the reviewer(s) in the space provided. You can use this space to document any changes you make to the original manuscript. In order to expedite the processing of the revised manuscript, please be as specific as possible in your response to the reviewer(s).

IMPORTANT: Your original files are available to you when you upload your revised manuscript. Please delete any redundant files before completing the submission.

Because we are trying to facilitate timely publication of manuscripts submitted to the Experimental Animals, your revised manuscript should be uploaded as soon as possible. If it is not possible for you to submit your revision in a reasonable amount of time, we may have to consider your paper as a new submission.

Once again, thank you for submitting your manuscript to the Experimental Animals and I look forward to receiving your revision.

Sincerely,
Hironichi Yonekawa
Editor in Chief, Experimental Animals

--
Reviewer: 1
Comments to the Author
-comments to the Author-

Reviewer: 2
Comments to the Author
-Comments 2-

Editor
Comments to the Author:
-Comment to the Author-

Respond to these Comments
Decision Letterを確認の上、Reviewerのコメントに対する修正内容をpoint by pointで入力します。日本語のファイルを添付する場合、PDFで文字化けがないかを必ずご確認ください。文字化けを起こしている場合は、deleteボタンを押してファイルを消去し、再度添付の操作を行います。正しく表示されるまでこの操作を繰り返します。

Respond to these comments

141 Response to Decision Letter

Attach a File:

Files attached

File Name	Delete
No Files Attached	

Save and Continue

Save and Continue を押して、次の作業ステップに進みます。

Revised Manuscriptの投稿

- 各Stepごとに必要箇所を修正します。
- 修正したファイルをアップロードする際には必ず、差し換え前の古いファイルは削除してください。

PDFを確認後、すべての項目にチェックが入ったら、画面最下部の“Submit”を押して投稿します。

Experimental Animals
JALAS
Japanese Association for Laboratory Animal Science

Edit Account | Instructions & Forms | Log Out | Get Help Now

scholarONE
Manuscript Central

Main Menu → Author Dashboard → Submission Confirmation

Site under review. You are logged in as Tom Author

Submission Confirmation

Thank you for submitting your revised manuscript to *Experimental Animals*.

Manuscript ID:	EA-08-0004.R1
Title:	Maternal Environment Alters Social Interactive Traits But Not Open-Field Behavior in Fischer 344 Rats
Authors:	Author, Tom
Date Submitted:	09-Dec-2008

[Print](#) [Return to Dashboard](#)

Manuscript Central™ v4.11 (patent #7,257,767 and #7,263,655). © ScholarOne, Inc., 2008. All Rights Reserved.
Manuscript Central is a trademark of ScholarOne, Inc. ScholarOne is a registered trademark of ScholarOne, Inc.
[Terms and Conditions of Use](#) - [ScholarOne Privacy Policy](#) - [Get Help Now](#)

Submit 完了です。

- ① Submit完了の通知メールが送信されますのでご確認ください。
- ② **Return to Dashboard**を押して、Author Dashboardに戻ります。

【重要】ブラウザの“戻る”ボタンは絶対に使用しないでください。